

原爆放射線医科学研究所 放射線先端医学実験棟 看板除幕式を開催しました

田代 聡

原爆放射線医科学研究所 所長
原爆放射線医科学研究所 細胞修復制御研究分野 教授

1961年に設置された原医研は、本年設立60周年を迎えました。この記念すべき年に「放射線先端医学実験棟」が完成し、5月13日には、原医研玄関ホールにおいて、越智 光夫学長はじめ多くの関係者が見守る中、無事、看板除幕式を開催することができました。

放射線先端医学実験棟は、鉄筋5階建て、延面積約4,000㎡となっており、原医研研究棟に隣接した場所に建てられました。国内外の関連研究者等との共同利用・共同研究などのために放射線実験施設、動物実験施設、遺伝子実験施設を整備し、さらに、放射線災害医療分野の人材育成のための原子力災害トレーニングセンターも設置しました。また、原爆医療関連の資料について、保管、調査、解析を行う附属被ばく資料調査解析部も移転し、その他、セミナーなどを行う講堂や会議室の整備も完了し、本格稼働に至っております。

原医研は、これまで進めてきた被爆医療・医学の実績に基づきながら、新しい方向性を持った放射線影響研究に取り組むとともに、しっかりと被爆者医療の実相を次世代に継承する責務があります。これからは、この放射線先端医学実験棟をフルに活用して、原医研が世界の放射線災害・医科学の教育研究拠点となり、放射線災害・医科学領域の発展に貢献できるように努力していく所存ですので、これからもよろしくお願いいたします。



編集後記

新型コロナウイルス感染症で日常生活がガラッと変わり2年近くが過ぎようとしています。その間オンライン化が進み、時間の節約になった面もありますが、人とのコミュニケーションの機会は極端に減ってしまいました。ふと、研究についてはどのような影響が出ているかなと思いました。現在、予測よりも感染者数が減少している様なので、このまま収束するのを祈るばかりです。

この度、BioMed News第6号を発刊するにあたって、お忙しい中ご協力いただきました執筆者ならびに広報委員の皆様へ心から感謝申し上げます。本号では、巻頭言、霞地区新任教授3名のご挨拶、新設講座紹介、座右の銘、トピックス、すぐれた論文や研究最前線などについて掲載しました。研究においてコミュニケーションツールの一つとしてお役立て頂けると幸いです。

2021年11月 広報委員 中野 由紀子

2021年（令和3年）11月発行

編集発行：広島大学大学院医系科学研究科広報委員会
住 所：〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号
電 話：(082) 257-5013（霞地区運営支援部総務グループ）
E-mail: kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp
U R L: <https://www.hiroshima-u.ac.jp/bhs>